



《共通事項》

◆生育状況について

1. 管内の生育状況〔満開日〕

品目	品種	令和7年	令和6年
杏	新潟大実	4/7	4/2
プルーン	くらしま	4/15	4/10
梨	南水	4/19	4/13

◆乾燥対策について

降雨なく乾燥が続く場合は、土壌が乾く前に定期的なかん水(1回に20～30^{リットル})を行う。

◆梅栽培日誌の提出について

梅出荷予定者は、下記期日までに各果樹技術員まで提出されますようご協力下さい。

1. 提出期限:《梅 ⇒ 5月15日(木)まで》

2. 提出方法:役員さんを通じてか、直接流通センター・共選所まで提出下さい。

3. 留意事項

①栽培日誌の内容を果樹技術員がチェックし、法的に問題がある場合は販売できません。

②提出されず出荷された場合は、安全性が確認できないので返品の対象になります。また、内容が確認できるまで荷受けは行えません。期日に遅れないようお願い致します。

《プルーン・すもも》

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期:5月13日(火)～5月18日(日)

散布日 月 日

2. 調 合 量:水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
㊟ダイアジノン水和剤	100g	シンクイムシ類	21 日

3. 散 布 量:10a当り=4000以上

4. 留意事項

①りんご(生理落果)やもも・ネクタリン(葉葉害)に農薬飛散しないよう十分注意する。

②ダイアジノン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤 1,000 倍(水 1000 当り 100g)又は㊟オリオン水和剤 1,000 倍(水 1000 当り 100g)を使用してもよい。

③降雨が多い場合は、トレノックスフロアブル 500 倍(水 1000当り 200ml)を加用散布する。

④散布の際、ノズル噴口は1.0mmを主体に使い、圧を上げ細かい霧でタツプリかける。

鉄砲噴口等でジャージャーかけると、ブルームが流れ、雫がたまると薬斑になる。

◆あら摘果について

摘果は早いほど果実肥大はよいが、第2期の生理落果(不授精による)が開花後2～4週間後にあるため、実止まりを確認してから実施するのが基本。さらに第3期の生理落果が6月にあり(果実相互、果実と枝葉の養分競合による)、摘果が遅れるとさらなる生理落果につながるため、遅れないように実施する。着果量の多い品種(スタンレイ・ツアー等)や結実良好であった品種・樹勢の弱い樹等は予備摘果に重点を置く必要がある。くらしまプルーンは、不受精果が判断できるようになったら早期に摘果。

1. 時 期 小指大の時(満開後30日後頃)

①すもも(貴陽) ⇒ 5月中旬頃(平坦部) プルーン(スタンレイ) ⇒ 5月中下旬頃(平坦部)

2. 程 度

- ①樹勢の弱い樹 :2年枝の摘果を行い、果実肥大に努める。
- ②生理落果《少》品種:あら摘果に重点(仕上げ摘果の2割り増し程度残す)を置き、仕上げは軽度にする。(スタンレイ、アーリーリバー、ベイラー、ソルダム等)
- ③生理落果《多》品種:あら摘果は軽度(仕上げ摘果の3～4割程度多めに残す)にし、2年枝を中心に摘果する。(グランドプライズ、トレジディ、サンタローザ等)

3. 方法(受精した果実は緑色が強く、不受精果は黄緑色を呈する。)

- ①緑色で正常な果実を残す。病害虫果・奇形果・小玉果・障害果などを落とす。
- ②下から横向きの果実を残す。上向き果は、風による障害・日焼等で果皮が荒れやすいので落とす。

◆摘果の程度

《プルーン》

1. 小玉品種⇒5cm に2果(3cm間隔)、1短果枝に1果(少ない場合は2個鈴成り)
2. 中玉品種⇒10cm に3果(3～5cm 間隔)を目安に行う。(2～3短果枝に1果)
3. 大玉品種⇒10cm に2果(5～6cm 間隔)を守る(3～4短果枝に1果とする)

《スモモ》

1. 中玉品種⇒1短果枝に1果を基準とし10cm に1果を目安に行う。
2. 大玉品種⇒着果間隔で10～15cm に1果残す。

◆プルーン・すももの仕上げ摘果講習会開催について

下記の日程により講習会を開催します。都合のよい会場で受講するか個々に果樹技術員まで。

開催日	曜	時 間	集 合 場 所	担当
5月15日	木	午後 1:30	柴田孝昭様(塩崎) 前回の畑に集合	徳武・松坂
5月16日	金	午前 9:00	林今朝広様園(御厨) 場所がわからない方は8:50分までに 御厨店に集合ください	松橋
		午前10:00	駒村和久様園(綿内東公園近く)	寺澤
		午前11:00	荒井袈裟男様園(小市橋近犀川河川敷)	松橋

※上記以外の地区については個々に対応しますので果樹技術員までお問い合わせ下さい。

《な し》

◆南水の新梢管理について

1. 剪定の切り口から不定芽が発生するので、主枝の赤道面より上側の芽は手で除芽する。(赤い芽のうちに行う。)
2. 主枝先端が花芽の場合、2本程度の副芽が出るので早いうちに1本にする。
3. 誘引作業の実施。 4. 主枝先端の新梢は垂直支柱にそって誘引する。(秋までの伸びが良くなる)

《あんず》

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期: 5月16日(金)～5月20日(火) 散布日 月 日
 2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソ ー ゲ ン	200 g (158ml)	ほう素欠乏	—
㊥モスピラン顆粒水溶剤	25 g	アブラムシ類	前日
アンビルフロアブル	100ml	灰星病	7日

3. 散 布 量: 10a 当り = 400ℓ 以上

4. 留意事項

- ①少雨で乾燥するとほう素欠乏が発生しやすくなる。かん水を行うとともに葉面散布剤の散布を行う。
 ②モスピラン顆粒水溶剤に代えてコルト顆粒水和剤 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g) 又は、トランスフォームフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50ml)を使用しても良い。

果実への感染の様子	〔特徴〕
	・果実及び葉などに白く「うどんの粉」をかけたような症状で、他の病気は降雨等により発病・感染するが、この病害は高温干ばつ時に発生が多くなる。 ※基本的に葉への感染がほとんど無い ・発生初期は白いカビが生えており、感染から時間が経過するとともに褐色から茶褐色に変化する。

《うめ》

◆第4回薬剤散布について〔中梅・大梅〕

1. 散布時期: 5月17日(土)～23日(金) 散布日 月 日
 2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
イオウフロアブル	166ml	黒星病	前日

3. 散 布 量: 10a 当り = 500ℓ 以上

4. 留意事項

- ①アブラムシの発生が多い場合は、㊥バリアード顆粒水和剤 4,000 倍(水 100ℓ 当り 25g・収穫前日・年 2 回以内) 又はダントツ水溶剤 4,000 倍(水 100ℓ 当り 25g・収穫前日・年 3 回以内)を加用散布する。
 ②汚れ軽減のため、展着剤に代えて、まくぴか 10,000 倍(水 100ℓ 当り 10ml)を使用してもよい。

◆小梅の出荷目揃い会開催について

参加される方は、自園の小梅を少量持参下さい。熟度(収穫時期)調査いたします。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月16日	金	午前9:30	松代総合センター	伊藤

※5月19日(月)より荷受開始となります。早まる方は対応しますので連絡ください。

《オウトウ》

◆オウトウの新梢管理について

- 着果数が少ない樹は、新梢の発生が旺盛になるので、こまめに摘心を心掛ける。
1. 摘心時期:満開後3～4週間頃実施する。(5月上から上中旬頃が目安)
なお、早いと再伸長しすぎ、遅いと葉芽ができなくなる。
 2. 摘心方法:新梢の基部1～2cm(5葉くらい) 残して切る。遅れた場合はやや長めに残す。摘心する新梢は、側枝延長枝と競合するものや側枝の背面から発生する強いものとする。

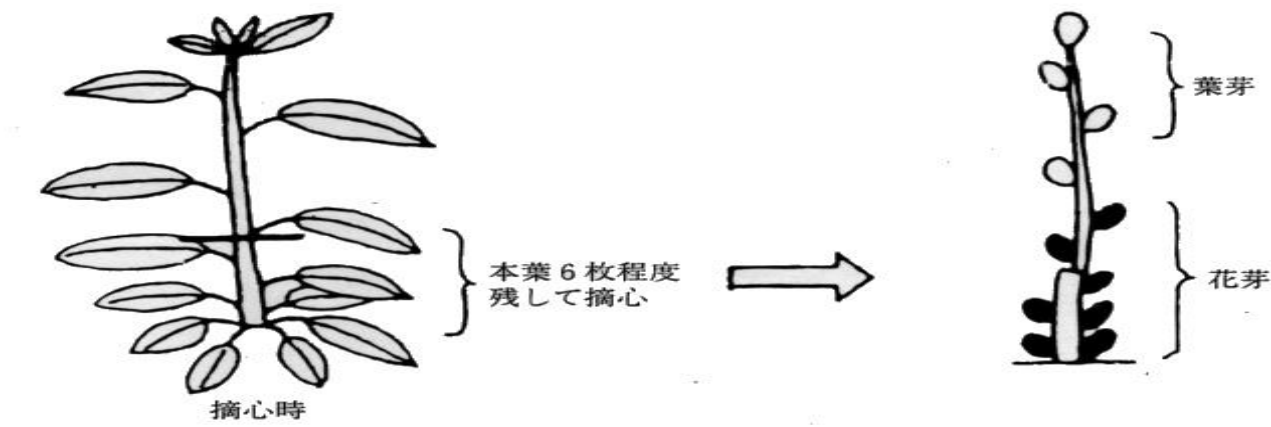


図2 摘心の方法

◆第5回薬剤散布の実施について

- 1.散布時期:被覆直前 散布日 月 日
- 2.調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
㊞スカウトフロアブル	33mℓ	オウトウショウジョウバエ	前日
オンリーワンフロアブル	50mℓ	灰星病	前日
(カネマイトフロアブル)	100mℓ	ハダニ類	7日

3. 散 布 量 :10a当り＝10a当り500ℓ 以上
4. 留意事項
カネマイトフロアブルに代えてマイトコーネフロアブル 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100mℓ・収穫 3 日前までを
使用しても良い。